

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス くるみの森 森田			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ~ 2025年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	2人
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ~ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長期休暇や土曜日・祝日のイベントに力を入れています。	毎月全体ミーティングを行いながら、利用者のニーズに沿ったイベントの企画を行っています。外出イベントだけではなく室内で行う調理体験やおやつクッキング、工作にも力を入れています。	外出イベントは固定化せずいろいろな場所へお出かけすることが出来ていますが、室内行事のレパートリーに乏しいと感じるため、より一層楽しめる室内行事も考えていきたい。
2	事業所だけではなく、他事業所(同社)との連携を図っています。	月一回の他事業所を含めた研修会や意見交換会などのミーティングを行っています。職員の技術向上や事業所間での疑問点なども話し合いながら共有を図っています。	理想は、研修で月一回ミーティングで月一回などこまめな集まる場を設けたいとは思っているが、なかなか現実的に厳しいが開催できるよう努めていきたい。
3	保護者の方々との情報共有やレスパイトケアに努めています。	年二回の面談に加え送迎時の申し送り等を含め情報共有を行っています。またレスパイトケアの観点から利用頻度も考えていったり調理体験を行いながらお弁当を作る機会を減らすなどの工夫も行っています。	これまで通りの面談や申し送りを通した情報共有に加えて保護者様同士の交流を増やしていけるよう努めて行きたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館や地域の方々との交流や活動する機会を設けられていない。	内向的な施設方針だったこともあり、交流する機会を設けることが出来なかった。	まずは地域清掃さらはじめ近隣住民の方から関われる機会を増やしていきながら、活動の輪を広げていきたい。
2	保護者様同士の交流の機会が失われている。	コロナ禍で機会が失われていたため開催できるようにしていきたい	来年度はまずは年一回から保護者交流会の開催を計画予定なので、保護者や利用者どちらも楽しめるような企画を考えていきたい。
3	社内研修は行えているが外部講師を招いた研修機会が少ない。	今年度は外部講師を招いた研修を行うことが出来ていたが来年度も継続して開催できるよう努めていきたい。	事業所連絡会を通していろいろな講師の方を招きながら研修を行いながら技術向上に努めていきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス くるみの森 森田

公表日 2025年3月14日

利用児童数

3名

回収数

66%

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1			1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1		1			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1				

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス くるみの森 森田				公表日	2025年3月14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	くるみの森つくし野から森田に引っ越し一人当たりの活動スペースは増えています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	4		適切ではあるが、現状の体感では職員数を増やすことで支援の幅が広がる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	5		建物の構造上仕方ないのだが、玄関の階段が多い。また事業所内の段差については工夫していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	毎日の業務終了後に掃除と消毒を行っています。また、年末には利用者を含めた大掃除も活動に一環で取り入れています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2		建物の構造上個室という個室は確保できていません。ただ、必要に応じて事務所を開放することでクールダウンスペースとして確保できます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2	職員全員で支援会議などを行いより良い支援が出来る様にPDCAサイクルを意識した計画を作っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	年に1度の事業所評価を通して、事業実態を把握し改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	月一回のスタッフMtを通して、日々の業務での改善点や役割を確認しています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	評価表を元にMtを行いながら事業所に対する評価を受け止めそれに対する改善できることはするように話し合いを行っている。	事業所内だけではなく他部門の事業所からの評価も取り入れていきたいと思う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月、各課題に対する研修を行っている。また欠席している職員に対しても後日周知教育を行っている。	外部研修も積極的に取り入れていきたい	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2	1月に他事業所を含めたMtを行い全体で共有を行いながら事業所での支援プログラムの内容を検討を行った(2月にHPにて公表済み)		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		個人面談及びその他1回の年2回アセスメントを行い現状に見合った計画を作れるようにしています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	計画自体は児童発達管理責任者が作成を行いますが、職員全体で利用者の情報を共有を行いながらよりよい計画作成に努めています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	職員が見る機会が少ないのが現状	作成を行った計画については回覧を行いながら全体共有に努めていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	個人記録を用いて日々の利用者の状態を記録しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	令和6年4月から個別支援計画の様式変更を行いガイドラインに沿った内容に変更しています。	変更は行いましたが、まだ新様式に慣れていなく計画内容に偏りが見られるため幅広いニーズに添えるように計画を練っていききたいと思う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2	職員全員で案を出し合いその日の利用者の特性に応じた内容を話し合っている。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	2	職員全員で案を出し合いその日の利用者の特性に応じた内容を話し合っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	職員全員で案を出し合いその日の利用者の特性に応じた内容を話し合っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	就業の前後に関わらず各職員の気づきやご家族様の周知情報なども共有を図っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	就業の前後に関わらず各職員の気づきやご家族様の周知情報なども共有を図っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		各利用者様の個人記録を行い情報共有できるようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	事業所内のみならず担当の相談支援員さんと連携を図りながらモニタリングを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達管理責任者が出席している。	基本、児童発達管理責任者が出席しているが、保育士なども同席できるようにしていきたいと思う
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	いとう内科クリニックさんと協力医療機関として連携している	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	保護者様の協力のもと連携を図れています。	ただ、下校時間の変更気づかず遅れてしまうことも実績として見られているため改善していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	相談支援員さん主催のもと関係機関を含めた移行支援会議に参加しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	4		現実実施できていないので、今後関係機関と連携を図りながら実施していきたいと思います。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		イベントを通して交流が出来る機会を増やしていく
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1	運営規定とまではいかないが、契約時に重要事項説明書を活用しながら説明を行っています。	支援プログラムについては、今後HPIに掲載している旨を周知していきます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		個人面談や支援会議等で相談援助を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5		令和7年度からまずは年1回を目標として保護者交流会を復活させる予定です。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		くろみ通信やlineのタイムラインにて活動内容を公表しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	年数回避難訓練などの災害訓練を行ったり、消防署協力のもと避難訓練も行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	年数回避難訓練などの災害訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用開始時の面談やフェイスシートを活用し情報を得られるように努めています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	事前に面談を行いながら各情報の聞き取りを行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		些細な事でもヒヤリハットとして記録を残すようにしている。	ヒヤリハットの記録をするだけでなく、それに対する事例検討会を開いていきたい
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		年に2回虐待防止法などの基礎知識を含め研修会を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	年に2回虐待防止法などの基礎知識を含め研修会を実施している。		